

2021年度 IHI ターボ 安全衛生管理重点課題

I. 基本方針

過去の体験を排し、全ての職場が「IHI グループ安全基本原則」を完遂して、現場作業と指導に乖離のない一体となった安全管理の実現を目指す。

「プロジェクト Change」に掲げる『環境変化に打ち勝つ事業体質への変革』に向けて、従業員および組織のウェルビーイング(*1)を高める活動に取り組む。

(*1) ウェルビーイング (Well-Being) : “こころ”と“からだ”が健康で、いきいきと働き、個人も組織も活力ある状態

II. 管理目標

- ・安全衛生管理 : 災害ゼロ
- ・健康管理 : ①高ストレス職場(総合健康リスク 120 以上)ゼロ
②疾病予防支援のための特定保健指導 100%実施

III. 重点課題

経営幹部と管理監督者が率先垂範し、従業員全員が重点課題に主体的に取り組み、その進捗状況を安全衛生委員会等で適宜確認することで、管理目標を達成する。

1. 安全衛生管理重点課題

(1) 災害防止活動の強化

①「IHI グループ安全基本原則」の実作業への確実な落とし込み

- ・ KYM, リスクアセスメント (RA) 活動により「IHI グループ安全基本原則」を具体化して浸透させると共に状況を把握し、特にこれまで危ない事が無かった作業も対象に点検する。
- ・ 過去に発生し、災害頻度の高い「はさまれ・巻き込まれ」「手工具使用作業」や「にくい作業」の防止に注力する。
- ・ KYM, RA の結果が作業手順書等に反映できているかを確認する。

②ICT の積極的活用による新しい安全活動の取り組み

- ・ 現場カメラの設置や、Teams 等の ICT を活用することで、不安全状態・不安全行動の早期発見やコミュニケーションを推進する。
- ・ 密集密接を避ける環境を考慮して、リモートパトロールやリモート RA に取り組む。

(2) 安全衛生管理水準の確保・向上

①災害リスクが高い対象層への安全指導の強化

- ・ 災害発生リスクの高い対象層を絞り込み、その対象層に対して教育を積極的に実施する。

②職場の安全管理・指導体制の強化(安全作業リーダーの育成)

- ・ 現場最前線で本質安全を考慮した災害対策が実施できるように、作業リーダークラスに対して安全指導に関する教育の実施を行う。

③現場パトロールの強化(SBU独自テーマ)

- ・ クロスパトロール, 自部門パトロール, 是正確認パトロール等の活動を推進し、全従業員の安全意識の向上, 現場の不安全状態の改善を図る。また、現場カメラ等も活用し、定点観測による不安全行動の抽出, 分析, 是正に取り組む。

2. 健康管理重点課題

(1) 活力を生むウェルネス活動の強化

経営幹部・人事担当者・産業保健スタッフ・管理監督者は連携して、心と体が健康で、個人・組織ともに活力のある職場づくりおよび職場改善活動の支援を行う。

- ① ストレスチェック部門分析を活用し、職場の健康リスク要因を絞り、職場改善活動につなげる。
- ② 健康診断結果や特定保健指導を通し、個々のニーズや年齢等に合わせた健康支援を行う。
- ③ 環境・働き方に変化が生じた場合は、変化への適応に向けて、情報の共有や面談等の健康支援を推進する

(2) 基盤となるヘルスケアの継続

経営幹部・人事担当者・産業保健スタッフ・管理監督者は連携して、適切なヘルスケアが円滑に行われるように健康支援を行う。

- ① メンタル不調者への迅速かつ適切な対応
- ② 健康リスク保有者に対する疾病予防対策の推進と適切な就業措置管理
- ③ 健康リスク低減のための指導と、従業員は健康リスク低減に向け結果改善の努力を継続する
- ④ 治療と職業生活支援の継続
- ⑤ 熱中症・新型コロナ・インフルエンザ感染拡大予防対策の徹底と、体調不良者が相談しやすい職場風土の醸成

以 上

<参考添付> IHI グループ安全基本原則

①高所からの墜落

1. 本質的・物理的対策を実施する
2. ハザードマップなどにより危険箇所を把握する
3. 安全帯を必ず使用する

②中低所からの転落

1. 昇降設備が倒れないようにする
2. ステップの端に立たない
3. 降りるときは特に注意する

③機械・装置によるはさまれ・巻き込まれ

1. 点検修理時には、電源や動力源を遮断する
2. 可動範囲に覆いを設ける
3. 可動範囲から退避する

④重量物取り扱い時のはさまれ

1. 重量物が倒壊・落下しないように固定する
2. 動くおそれのある物からは退避する
3. 手を触れないで作業できるようにする

⑤手工具使用時の災害

1. 用途に合った工具を選択する
2. 工具に異常があった場合は使用しない
3. 工具は安定した姿勢で正しく使用する

⑥グラインダー使用時の災害

1. 作業前に点検を確実にし、適切な保護具を使用する
2. 両手で把持して、安定した姿勢で使用する
3. 作業の中断時や姿勢を変えるときは、回転停止を確認する